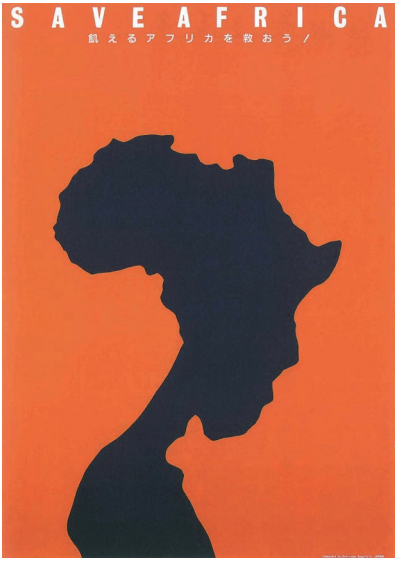
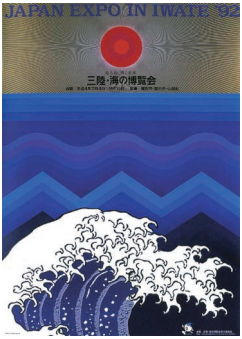
萬鉄五郎記念美術館
KONOMA
木の間通信
東和エリア
美術ニュース
2013.10.1
NO.9

1963－2013・デザイン半世紀

杉本吉武ベスト100ポスター展

2013年9月28日（土）～11月24日（日）





左《SAVE A FRICA》 1985年
中《三陸・海の博覧会公式ポスター》 1992年
右《Hommage de Yorozu》 2013年

盛岡市在住の杉本吉武は、国内外の数々の受賞歴が物語るように、洗練された印象的なビジュアルイメージを地方から発信し続けてきました。今回の展覧会では、半世紀にわたる活動の中からB全判ポスターに限定し、新作《花巻シリーズ》を含め109点の作品を紹介します。

【休館日】 月曜日（祝日の場合は翌日）
【開館時間】 8:30～17:00（入館は16:30まで）
【入館料】 一般500円、高校・大学生300円
小・中学生200円
＊20名以上の団体各50円引

ミュージアムコンサート
「佐藤加津三 アルトサックス・コンサート」

日時 10月20日（日） 14:00～15:30
会場 萬鉄五郎記念美術館 （参加無料）

Logo design / 杉本吉武

○ミュージアムコンサート

「佐藤加津三 アルトサックス・コンサート」

日時：10月20日（日）14:00 ～ 15:30（開場13:30）

会場：萬鉄五郎記念美術館　（参加無料）

ジャズや映画音楽を中心とした演奏会を行います。

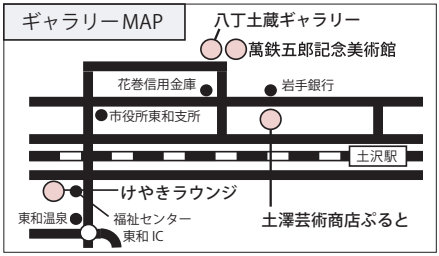
美術の街「土沢」ギャラリー情報

萬鉄五郎記念美術館とあわせて、「美術の街」土沢めぐりをしてみてはいかがでしょうか。

《土沢商店街 10・11月のイベント》

【とうわ産業まつり】 10月12日（土）、13日（日）

【市民芸術祭】 展示部門　10月26日（土）、27日（日）
舞台部門　11月3日（日）



萬鉄五郎記念美術館 八丁土蔵ギャラリー

花巻市東和町土沢 5-135 萬鉄五郎記念美術館内
9:00-16:30 月曜休（祝日は翌日）、9/24-27休 入場無料

iwate コンテンポラリーアート

VECTOR→HACCHODOZO→TOWA

さいとうよしとも 展

9月28日（土）～ 11月24日（日）

気鋭の映像作家がつづる東和の風景。

土沢商店街 8か所

花巻市東和町土沢8-115 こっぱら土澤内 tel.0198-29-5959
開場時間・定休日は会場により異なります　入場無料

有田焼 照井一玄 展

—古稀に想う…ふるさと土澤—

11月1日（金）～11月17日（日）

土沢出身の有田焼陶芸家 照井一玄氏の作陶展。商店街全体が会場です。「ぷると」「猿舘酒店」他8会場で開催。

アート＆クラフト〈土澤〉マーケット

10月12日（土）～10月13日（日）　10:00～16:00

会場：土澤商店街＆萬鉄五郎記念美術館前
アートや工芸、いろいろな手作りのお店が150軒！

【同時開催】

覆面アーティスト 掘りだし市

10月10日（木）～10月16日（水）
会場：土澤芸術商店ぷると 11:00 ～ 17:00
絵画、版画、立体と様々なジャンルの作品を展示販売。作家名は伏せて、価格は5,000円均一！作品そのものの魅力でアートを選ぶ場に。　http://www.arttsuchizawa.com/

問合せ／土澤芸術商店ぷると
花巻市東和町土沢8-115 こっぽら土澤内　tel.0198-29-5959

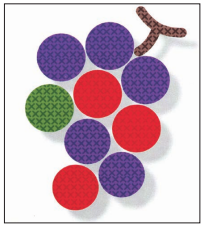
Gallery Space けやきラウンジ

花巻市東和町安俵6-90 東和図書館内 tel.0198-42-3205
10:30～19:00（最終日は16:00まで）入場無料

照井恵子 展

10月1日（火）
～10月31日（木）

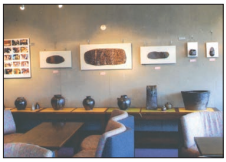
けやきではおなじみ、常連の裂き織ワールド



第2回 玄平窯作陶 展

11月1日（金）
～11月30日（土）

昨年大好評。小通の新名所　迫力ある仲間たちの新作



土澤芸術商店ぷると

花巻市東和町土沢8-115 こっぽら土澤内 tel.0198-29-5959
11:00～17:00　日曜定休　入場無料

—半世紀シリーズ2013—
久保友喜 橋場あや ふたり 展

10月8日（火）
～10月13日（日）

手応え充分な作家同士のバトルを期待

覆面アーティスト 掘りだし市

10月10日（木）
～10月16日（水）

作家名は伏せて、価格は5,000円均一！作品そのものの魅力でアートを選ぶ場に。

丁字路

館長コラム

『宣言』の時代

詩人アンドレ・ブルトンの「シュルレアリスム宣言」（超現実主義・1924年）は、人間の感覚の解放を求めた20世紀で最も重要な芸術運動の一つである。

一方「レアリスム」は、その69年前に、クールベが個展で自ら「レアリスト」（写実主義者）と名乗ったことから、「レアリスム」という言葉が美術用語として定着するようになった。フランス最初のパリ万博（1855年）でアングル、ドラクロアの二人の巨匠を称揚して特別展示された。その展覧会にクールベは大作『オルナンの埋葬』『画家のアトリエ』を含む13点を応募したが、審査で拒否されたことに腹を立て、独力で万博会場の向かいで大掛かりな「個展」を開いた。しかもなんと万博と同じ1フランの入場料を取って対抗したが、実際には観客が少なく途中から無料にせざるを得なかった。これが美術史上最初の「個展」である。

その個展の目録に記載された「私は生きている芸術を作りたいのだ、単なる古典絵画の模倣でなく、自分の生きる時代の風景、人々、現実を自分の見たまま表現する」というクールベの文章が「レアリスム宣言」と言われる。当時、歴史画、神話画、宗教画が主流のなかにあって、「私は見たことも無い天使などは描かない」とするクールベの姿勢は批判を浴びた。しかし理想化、空想化しているロマン主義、新古典主義を否定、絵画はもっと現実を描くものと主張、美化せず目に見えるものの本質をとらえてキャンバスに実現した。

「宣言」は政治的には「アメリカ独立宣言」（1776年）、「フランス人権宣言」（1789年）、「共産党宣言」（1848年）が先行したが、20世紀になり、文学、美術の分野で「宣言」の手法が多くとられた。まずイタリアの詩人マリネッティが、1909年「未来派宣言」をフランスの大新聞フィガロに発表した。機械文明を謳歌、速度の美化を主張する未来派はたちまち世界に共鳴を呼んだ。次第に機械力の爆発である戦争を賛美してしまい後にファシズムに合流してしまった。が、斜線などスピード感のある描き方は、日本の画家にも伝わり、萬鉄五郎『赤い眼の自画像』の鋭角な斜めの線を多用した構成に影響を与えた。

未来派と対照的に、ルーマニアの詩人トリスタン・ツァラが「ダダ宣言1918」を書き、戦争の惨禍をもたらした近代文明、その道徳、芸術を否定した。世界各地に「ダダ」が生まれたが、持続性がなく、やがてダダと訣別したアンドレ・ブルトンが「シュルレアリスム宣言」を高らかに掲げたのである。

萬鉄五郎記念美術館長　中村光紀

萬鉄五郎『赤い目の自画像』1912-13年　油彩･画布　岩手県立美術館蔵

萬鉄五郎記念美術館　岩手県花巻市東和町土沢 5-135　Tel.Fax.0198-42-4405　8:30am. ～ 5:00pm.
yorozu00@cocoa.ocn.ne.jp　http://www.city.hanamaki.iwate.jp/sightseeing/yorozu/　月曜休館（祝日の場合その翌日）
発行人／東和町土沢商店街商店会連絡会会長小原茂明